

● 各種訓練の紹介②

災害図上訓練

災害時の避難について、小松島市の消防隊員からレクチャーを受けた上で班別に分かれて実施しました。

訓練としては、小松島市周辺の大きな地図を用い、当該地域で大規模な地震・津波が発生する事態を想定し、地図上で避難場所を探し、安全が確保できる避難ルートを検討しました。

各班で議論する中、避難に際して橋の損壊や道路の液状化により避難が困難となる事、タンクや自動車、小型船が漂流物となって危険を及ぼす事などいろいろな意見が出てきました。

また、電柱や建物の倒壊も考えられるため徒歩による避難を前提としていることから、①津波襲来時間までに避難が可能な施設がどこにあるか。②想定している避難場所までルートが寸断された場合、代替となる避難場所は他にあるか。が検討する上で重要なことであると訓練を通じて理解してもらいました。



各班による訓練実施状況

応急手当訓練

小松島市の消防隊員による応急手当訓練を実施しました。

訓練としては、家庭にある物干竿のような棒と毛布を使った応急担架の作成や、毛布が無い場合の着衣による応急担架の作成、毛布のみでの応急的な救護者の移動方法等、様々なケースを想定して対処方法を講習していただき、簡易的に作った担架で実際大きな大人を持ち上げてみたり、また、包帯を使用した止血方法（直接圧迫止血）や出血が止まらない場合、脇や股関節の動脈を圧迫する方法（間接圧迫止血）を学び、実際動脈圧迫により脈が止まっていることを確認したりと実演を交えて分かりやすく説明していただきました。

なお、ロープワークについての講習もあり、一本のロープに掴みやすいよう連続で素早く節を作る方法を教えてもらい、応急手当訓練全体で大変驚かされる内容ばかりで参加した方からも「今後の役に立つと感じた」「知らないことが多かったが分かりやすく教えてくれた」など大変好評でした。

応急手当は、地震等の被災時以外にも、事故など様々な場面で突発的に必要となる初動対応です。間違った救護方法だと悪化する場合があります。参加者は熱心に、いざというときに役立てられるよう、正しい救護方法を学んでいました。



応急担架の作成



止血方法



ロープワーク